



鳥取市子どもの読書活動推進委員会

おすすめ

絵本リスト



第 2 弾絵本リスト作成にあたって

～ 絵本を取り入れた子育て ～

この度、第 5 次鳥取市子どもの読書活動推進計画を作成するにあたって、0 歳児、1 歳児、2 歳児向けの絵本リストがほしいとの声の方々からあがりました。前回作成した 3 歳児～小学校低学年向けの絵本リストが、保護者をはじめ関係機関から好評を得ていた結果の要望だったのでしょうか。私達はその声を受けて、新たなメンバーで絵本部会を立ち上げ、乳幼児の発達を考えながら絵本リストを作成しました。

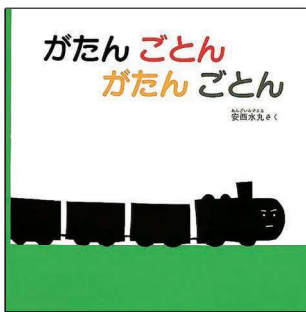
かねてより鳥取市は、ブックスタート事業において 0 歳児、1 歳児、2 歳児向けの絵本リスト「ねえよんで」の冊子を赤ちゃん親子に配布しています。絵本リストに載っている絵本を手に取り、読み聞かせを楽しむ親子が「ゆっくり ゆったり にっこり」の温かな時間が過ごせることを願っての子育て支援です。

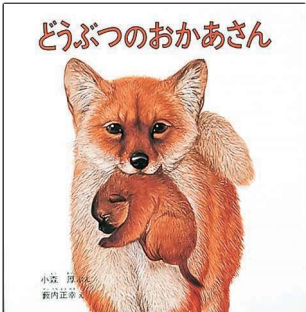
鳥取市に生まれた子はもちろん、その子を育てる親の笑顔が増えることを願ってやみません。この度作成した絵本リストは、乳幼児親子のみならず、乳幼児が過ごすであろう各関係機関にも大いに活用していただきたいと思います。そして絵本を取り入れた子育ての幸せを、私達とともに伝えてくださいますようお願いいたします。

鳥取市子どもの読書活動推進委員会

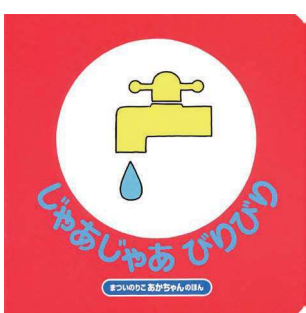
委員長 山田 節子

0歳向け

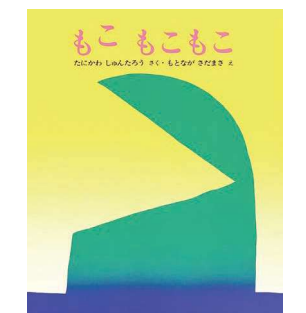
がたんごとんがたんごとん	福音館書店
安西水丸 / 作	
	「がたん ごとん がたん ごとん」とリズムカルな繰り返しと「のせてくださーい」と伸びやかな言葉の響きの中に、すっかり身体を委ねて楽しむことでしょう。

どうぶつのおかあさん	福音館書店
小森厚 / 文, 数内正幸 / 絵	
	動物の母親が、子どもを連れ歩く様子が描かれています。 □にくわえたり、だっこやおんぶをしたり。たくさんの動物の母親がいろんな形で子どもを運びます。

くだもの	福音館書店
平山和子 / 作	
	ぶどうにりんご……次々とみずみずしい果物の絵が描かれています。ページをめくると「さあ どうぞ」と食べられる状態の果物が。思わず絵本に手が伸び、よだれも出てきてしまうほど。

じゃあじゃあびりびり	偕成社
まついのりこ / 作	
	赤ちゃんが暮らしの中で出会うものが描かれています。 「じどうしゃ ぶーぶー いぬ わんわん」リズム感のある音の響きを身体中で楽しんでくれるでしょう。

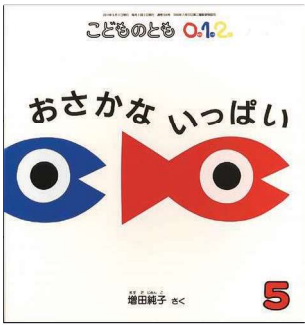
いないいないばあ	童心社
松谷みよ子 / 文, 瀬川康男 / 絵	
	およそ日本中の赤ちゃんが体験しているしぐさが絵本のかたちで表現されています。3つのことばで、実体験も是非。是非親子で楽しみましょう。

もこもこもこ	文研出版
たにかわしゅんたろう / 作, もとながさだまさ / 絵	
	表紙をめくったら「しーん」とひとこと、次の頁の「もこ」次は「によき」。文章のことばと絵の色、デザインに引き込まれてしまうこと、間違いなしです。赤ちゃん絵本の定番です。

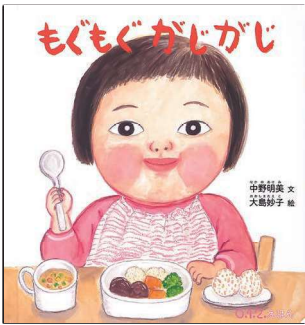
おつきさまこんばんは	福音館書店
林明子 / 作	
	どの頁も夜の空。赤ちゃんにとっては不思議でしょうね、何がおこってるのかしら？って！夜の空を経験するのは、赤ちゃん本人が生後6か月とか。少し大きくなってからでしょうね。

おつむてんてん	金の星社
なかえよしを / 作, 上野紀子 / 絵	
	赤ちゃんと一緒についてしまうしぐさを絵本で表現しています。「ねずみくんのチョコッキ」のコンビ、なかえよしを・上野紀子の作品。大人同士、いろんな動物になっても楽しめます。

0歳向け

おさかないっぱい	福音館書店
増田純子 / 作	
	ページいっぱいに、色とりどりのおさかなが「いっぱい」描かれています。絵を見ただけで、水の中をのぞいているような気持ちになれる絵本です。親子で「どのおさかなが好き?」「こっちにもいたね」と会話を広げやすい絵本です。

かおかおどんなかお	こぐま社
柳原良平 / 作	
	いろいろな「かお」がユーモラスでシンプルなイラストで描かれています。「かなしいかお」「おこったかお」「えがお」など、感情や表情が分かりやすく紹介されています。読みながら親子で「同じ顔してみよう」と遊べるのも楽しいです。

もぐもぐがじがじ	福音館書店
中野明美 / 文, 大島妙子 / 絵	
	食べることに興味を持ち始める0歳児からぴったりの絵本です。動物や人が「もぐもぐ」「がじがじ」と食べている様子を、リズムカルな言葉と楽しい絵で描いています。赤ちゃんが好きな「食べる音」がテーマなので、自然と笑顔になります。

赤ちゃん絵本

赤ちゃんは、リズム感のある言葉がちりばめられている絵本が大好き。体のあちこちを動かして、言葉の音を楽しみます。その姿を見ただけで周りの大人に笑みがこぼれます。大好きな大人に生の声で語りかけられる温かな時間は、親子の愛着の気持ちが深まるのです。

ゆっくりと目を合わせながら読んであげてください。

赤ちゃんわらべうた

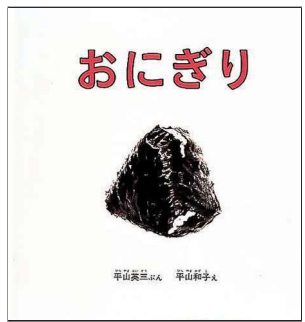
わらべうたには、幼い子どもにとって気持ちの良いものがたくさん詰まっています。シンプルなメロディであるがゆえに、聞く耳に心地良いのです。

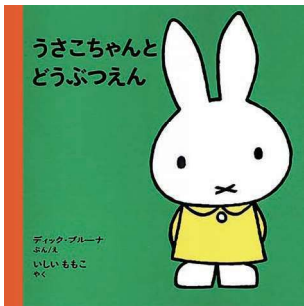
目と目を合わせ、体をさすったりつついたり、肌の触れ合いをしながら、わらべうたを楽しんでみませんか。

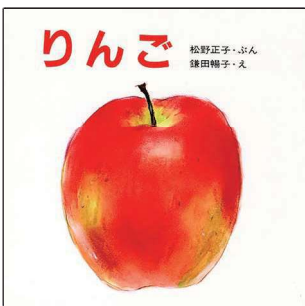


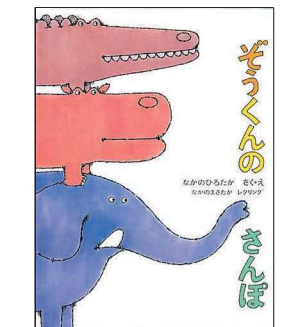
1 歳 向 け

いただきます	福音館書店
わたなべしげお / 文, おおともやすお / 絵	
	まるで、くまくんと一緒に食べているようですし、食べることが大好きになってくれる絵本です。汚れることを気にしないで楽しく食べることが大事であることを教えてください。 そしていつか、こぼさないで食べられるようになっていく成長をみることのできる絵本です。

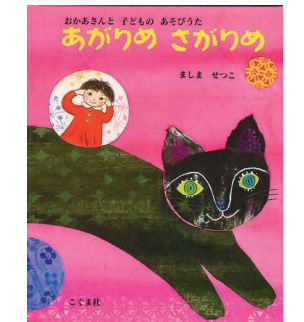
おにぎり	福音館書店
平山英三 / 文, 平山和子 / 絵	
	大好きなお母さん、お父さんが、熱々のごはんをにぎにぎしてくれる楽しい絵本です。日本人の愛情たっぷりのおにぎりがどのようにつくられるのかじっくりみて、あつあつふわふわな美味しいおにぎり完成です。「さあ、めしあがれ。」

うさこちゃんとどうぶつえん	福音館書店
ディック・ブルーナ / 文・絵, いしいももこ / 訳	
	大好きなお父さんに「いっしょにくるかい？」と楽しい時間ははじまります。どうぶつにもいっぱい会えて歩いて疲れちゃったけれど次のおでかけも楽しみになる絵本です。「今度は何処にいこうかな？」と楽しい会話が聞こえそうです。どうぞ親子でお話してください。

りんご	童心社
松野正子 / 文, 鎌田暢子 / 絵	
	繊細に描かれたおいしそうなりんごが次々と。大好きなお母さんが包丁を使ってシャキシャキと皮をむいてくれると、みんな同じ白いりんご。芯と種を取って食べるりんごは「おいしいね」

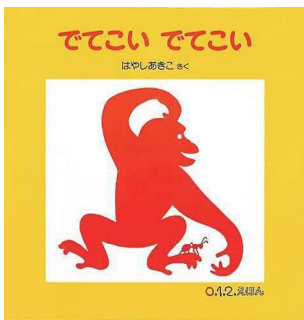
ぞうくんのさんぽ	福音館書店
なかのひろたか / 作・絵, なかのまさたか / レタリング	
	今日はいい天気。ごきげんなぞうくんは散歩にでかけます。とちゅうで出会った、「かばくん」や「わにくん」、「かめくん」ものせて、力持ちのぞうくん。どんどん進むと、あっ、いけが。どうなるかな。

たまごのあかちゃん	福音館書店
かんざわとしこ / 文, やぎゅうげんいちろう / 絵	
	「たまごのなかで かくれんぼしてる あかちゃんは だあれ?」「でておいでよ」と呼びかけると、にわとりやかめ、へびなどたくさんのおかちゃんができました。かくれんぼ、楽しいですね。みんなもいっしょに「こんにちば」

あがりめさがりめ	こぐま社
ましませつこ / 絵	
	「あーがりめ さーがりめ ぐるりと まわって ねーこのめ」むかしから伝えられてきたわらべうたがたくさん。子どもとふれあい、歌って、体を動かして、いっしょに楽しみましょう。

ととけっこうよがあけた	こぐま社
こばやしえみこ / 案, ましませつこ / 絵	
	わらべうた「ととけっこうよがあけた ○○ちゃん おきできな」と歌いながら、にわとりが動物の子どもたちをつぎつぎに起こしていきます。お子さんを起こすときに、いっしょに歌ってみてはいかがでしょう。

1 歳 向 け

でてこいでてこい	福音館書店
はやしあきこ / 作	
	みどりの葉っぱに「でてこい でてこい」とよびかけて、ページをめくるとカエルが飛び出します。鮮やかな色で描かれた形の中から、今度は何が飛び出すのかな。一緒に「でてこい でてこい」

てんてんてん	福音館書店
わかやましずこ / 作	
	てん てん てん てんとうむし。ぐる ぐる ぐる かたつむり。こどもたちも擬音語(ぎおんご)を楽しみながら生き物たちと出会える本。一緒に指さしながら、楽しんでくださいね。

もりのおふろ	福音館書店
西村敏雄 / 作	
	ライオン、ゾウ……つぎつぎに動物たちが森のお風呂にやってきます。動物たちがお風呂をぐるっと囲み、「ごしごし しゅっしゅ」とリズムカルな音で背中を洗いっこ。楽しいお風呂時間のきっかけに。

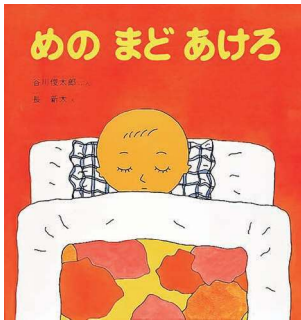
1 歳さんと絵本

周りの大人のまねをして、ふりをする
ことを楽しむ 1 歳さん。絵本の中の食べ物
をつまんでもぐもぐしてみせたり、体
を洗うまねを一緒にしたり。

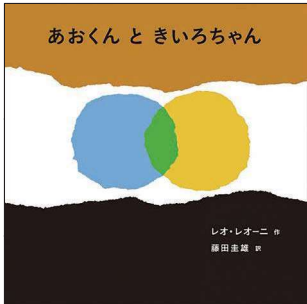
絵本の世界を遊びに変えて、子どもさん
のペースでゆったり楽しんでください
ね。



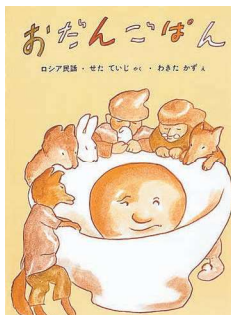
2 歳 向 け

めのまどあけろ	福音館書店	わたしのワンピース	こぐま社
谷川俊太郎 / 文, 長新太 / 絵		にしまきかやこ / 作	
	子どもたちの目覚めから眠りまでの日常を、リズムカルな言葉とユーモアあふれる絵で表現した絵本です。子どもたちの五感を刺激し、言葉の面白さや好奇心を育む一冊です。		うさぎの女の子がつくったワンピースが、さまざまな模様に変化していく様子を描いたおはなしです。季節の移り変わりや自然への興味関心を深めることができる絵本です。
しろくまちゃんのほっとけーき	こぐま社	きんぎょがにげた	福音館書店
わかやまけん / 作		五味太郎 / 作	
	子どもたちがホットケーキづくりを疑似体験でき、オノマトペが豊富で子どもと一緒に声に出して楽しめます。ホットケーキが焼き上がる場面は、見るたびに楽しさや満足感を味わえます。		金魚鉢にきんぎょがいつぴき。……あ、逃げちゃった！見つけた！と思ったら、また逃げ出したよ。きんぎょはどこまで逃げるんだろう……。追いかけてみよう！
おやすみなさいのほん	福音館書店	ねないこだれだ	福音館書店
マーガレット・ワイズ・ブラウン / 文, ジャン・シャロー / 絵, いいいもこ / 訳		せなけいこ / 作・絵	
	夜になって日が沈み、動物や乗り物、そして子どもたちも眠りにつきます。 神様に見守られているような安心感があり、読んでいるとだんだん眠くなっていきます。		時計を見たら、夜の9時だった！こんなじかんにおきてるのはだれだ？ 夜中に遊んでいる女の子がおばけにされちゃった！きみも早く寝ないとおばけにされちゃうよ～！
おんなじおんなじ	こぐま社	2歳さんと絵本 覚えた言葉を使ってコミュニケーションをとる2歳さん。つもりやみたての世界が充実してきます。「よんで よんで」と読み聞かせをせがみます。 その絵本が同じでも、大好きな1冊に出会えたねと絵本の時間をにっこりと過ごしてくださいね。	
多田ヒロシ / 作			
	とってもそっくりな仲良しのお友達、ぶたの「ぶう」とうさぎの「びよん」。あれれ、ぼうしもおんなじ、ズボンもおんなじ、もっているおもちゃまで。ちがうものも、あるのかな？		

3 歳 向 け

あおくんときいろちゃん	至光社
レオ・レオーニ / 作, 藤田圭雄 / 訳	
	作者のレオーニさんが二人の可愛いお孫さんに色遊びをしながらお話が始まりました。二つの色はどこへ行くのも一緒、何をして遊ぶのも一緒。とうとう一緒になって緑色になりました。遊び疲れて家に帰ることになったのにあおくんの家にも、きいろちゃんの家にも帰れません。泣き出しました……。どうなるのでしょうか。

おおきなかぶ (ロシアの昔話)	福音館書店
A. トルストイ / 再話, 内田莉沙子 / 訳, 佐藤忠良 / 画	
	「おじいさんがかぶをうえました。あまいげんきのよいとてつもなくおおきなかぶができました。」力を入れて抜きますが抜けません。おばあさんと一緒に「うんとこしょどっこいしょ。」抜けません。おばあさんは孫を、孫は犬を呼んでも抜けません……。それからどうなったのでしょうか。ロシアの昔話、リズムミカルなことばの繰り返し心地よいですね。

おだんごぱん	福音館書店
せたていじ / 訳, わきたかず / 絵	
	おじいさんがおいしいパンを食べたいとおばあさんに頼みました。おばあさんは、最後の粉を集めてパンを作りました。おいしそうなパンができ窓辺に置かれました。気持ちよくなったおだんごぱんは転がりはじめ家の外に転がっていきました。おいしい匂いのするおだんごぱんはうさぎやくまさんに会いますが、愉快な歌をうたっているのがれました。ところが……。楽しんで読んでください。

かばくん	福音館書店
岸田衞子 / 作, 中谷千代子 / 絵	
	動物園に朝が来ました。「一番早起きはだーれー。一番ねぼすけはだーれー」と作者の岸田衞子さんはかばの一日をリズムミカルな文で始めます。男の子が子亀をつれてやってきた。「かばよりちいさいかばのこーかばのこよりちいさいかめのこーかめよりちいさいものなんだ？」やわらかい中間色を使った絵で描かれていてほのぼのとした絵本ですね。

ぐりとぐら	福音館書店
中川李枝子 / 作, 大村百合子 / 絵	
	のねずみのぐりとぐらが森に食べ物を探しに出かけ、森で大きなたまごを見つけました。お料理することと食べることの大好きな二人は野原でお料理することになりました。何ができあがるのでしょうか。最後まで読んでくださいね。なんか……。いい匂いがしてきました。

ぐるんぱのようちえん	福音館書店
西内ミナミ / 作, 堀内誠一 / 絵	
	いつもめそめそ、そして、何もしないゾウのぐるんぱは、みんなが心配してきれいに体を洗い町に働きにでかけることになりました。はじめにつくったのはビスケット。大きいのをつくって叱られ、つぎの靴屋もピアノも超特大きすぎて失敗。しょんぼりしょんぼり……。でも子どもがたくさんのお母さんに出会い子どもたちと遊ぶことによって嬉しくなったぐるんぱ。みんなも楽しく遊んでくれるぐるんぱを見つけてください。

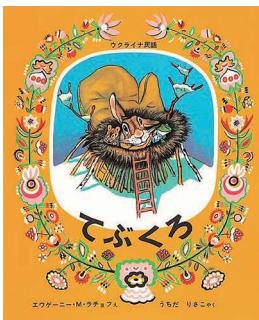
三びきのやぎのがらがらどん (ノルウェーの昔話)	福音館書店
マーシャ・ブラウン / 絵, せたていじ / 訳	
	名前はどれも「がらがらどん」という三匹のやぎがいました。ちいさいやぎ、中くらいのやぎ、大きいやぎがなかよく、草のたくさんある山にでかけることになりました。が、途中の谷川の橋の下に恐ろしいトロルがいます……。やぎたちは草場に行けるのでしょうか……。

しんせつなともだち	福音館書店
方軼羣 / 作, 君島久子 / 訳, 村山知義 / 画	
	雪のたくさん降るある日、のうさは食べ物が無くなったので雪の中を探しに行くことにしました。かぶが、ふたつもおちていました。ひとつだけ食べてひとつをロバさんにもっていったあげました。ロバさんは、見つけたさつまいもを食べていたのでこのかぶをやぎさんへ。困っているお友達に、つぎからつぎへとみんなの親切のかぶが回っていききました。友達もよい動物さんたちの心あたたまる絵本です。

3 歳 向 け

ちいさなねこ	福音館書店
石井桃子 / 作, 横内襄 / 絵	
	ちいさなこねこが家を出て出会う危険の数々。こねこがさまざまな危険を乗り切る姿に、子どもたちは自分の姿を重ね合わせ、ハラハラしたり、ホッしたり……。おかあさんねこに助けられ、最後は甘える姿も子どもたちと一緒にですね。親子でねこの気持ちになって楽しめる絵本です。

ティッチ	福音館書店
パット・ハッチンス / 作・絵, いしいももこ / 訳	
	ちいさな男の子のティッチが持っている物は、小さくて一見、役にたたない物ようですが……。小さくても大きな力を生み出す物は、こどもの成長する姿を映し出し、最後のティッチの笑顔に、自信やほらしさが感じられます。子どもの今を大切にしながら心を育てる絵本です。

てぶくろ (ウクライナ民話)	福音館書店
エウゲーニ・M・ラチョフ / 絵, うちだりさこ / 訳	
	森の中で、おじいさんの落とした手袋に次々と動物たちが入っていきます。だれでも入れる手袋はぎゅうぎゅう詰めではちきれそう。手袋の中は、大きさも個性もさまざまな動物でいっぱいです。動物たちが手袋に入る時のやりとりが楽しい、ほかほかの気持ちになれるおはなしです。

はらぺこあおむし	偕成社
エリック＝カール / 作, もりひさし / 訳	
	小さなたまごからあおむしがうまれました。おなかぺっぺこのあおむしは、食べ物を見つけてどんどんどんどん食べてやがては……。あおむしが食べる様子が色鮮やかな絵と楽しい仕掛けで表現され、ラストにはこころ弾む驚きが待っています。成長の不思議さや喜びが詰まった仕掛け絵本です。

まりーちゃんとひつじ	岩波書店
フランソワーズ / 文・絵, 与田準一 / 訳	
	まりーちゃんと、友達のぼたぼんとのやりとりが繰り返されます。おんなのこのまりーちゃんとひつじのぼたぼん。考え方や好きな物は、ちがってもずっと一緒。お話の中では、どんどん増えるひつじを数える楽しさも盛り込まれています。仲良しの友達のほのぼのとしたおはなしです。

もりのなか	福音館書店
マリー・ホール・エッツ / 文・絵, まさきりこ / 訳	
	もりへ、さんぽに出たばくんにいろいろな動物がついてくると、いつのまにか行列ができて……。動物たちは、どこか人間を思い起こす姿で、自由にさんぽを楽しみます。こどもの自由な空想と現実のはざまのような不思議さが感じられます。ばくと一緒にもりのなかのさんぽを楽しんでみてくださいね。

わにわにのおふろ	福音館書店
小風さち / 文, 山口マオ / 絵	
	おふろが大好きなわにわに。わにわにが、おふろを楽しむ様子がリズムカルに表現され、動きを表す音や、なんともいえないわにわにの表情が、笑いを誘います。自由で、気ままなわにわにには、見ている子どもたちの心ものびのびとさせてくれます。

私たちからのメッセージ

自分を取り巻く周りの世界への興味関心が、**ぐんぐん**とひろがり、イメージを広げて遊びが楽しくなってきた**3歳**の子どもたち。

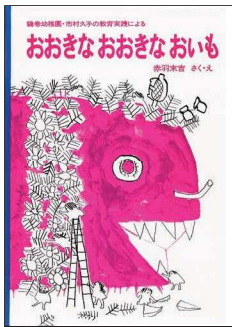
絵本のページをめくると、おはなしの世界にすうつと引き込まれていきます。

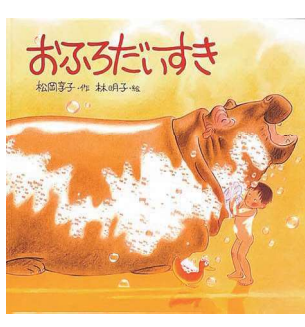
いつのまにか、おはなしの中に出てくる動物や子どもの気持ちになってときどき、**わくわく！**イメージの世界がどんどん広がります。繰り返しのことは一緒に口ずさみながら楽しく読める絵本がいっぱい。心がホッとする読み聞かせのひとときには、「もう一回よんで！」の声と笑顔がこぼれます。

4・5歳向け

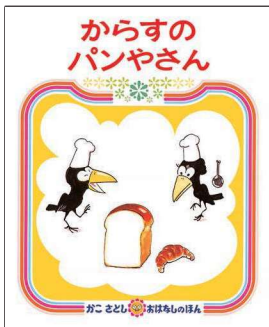
いたずらこねこ	福音館書店
バーナディン・クック / 文, レミイ・シャーリップ / 絵, まさきりこ / 訳	
	こねこがはじめてかめをみました。この生き物は何か。ポンとたたいてみると首が消えてなくなり、勇気を出してもう一度たたいてみると今度は足がなくなり大仰天。好奇心いっぱいのこねこの姿はまるで子どもたちの日常のようで、きっと子どもたちはこねこの気持ちに共感し夢中になることでしょう。

おおかみと七ひきのこやぎ (グリム童話)	福音館書店
グリム [原作], フェリクス・ホフマン / 絵, せたていじ / 訳	
	おおかみを家にいれないよう注意下さい。おかあさんやぎはこやぎたちにそういつて森に食べ物を探しにでかけます。こやぎたちは、おおかみの「しわがれ声」や「黒い足」を見抜いて、おおかみを追い払います。しかしおおかみは再びこやぎたちの家にやってきて……。語り継ぎたいグリム童話のひとつです。

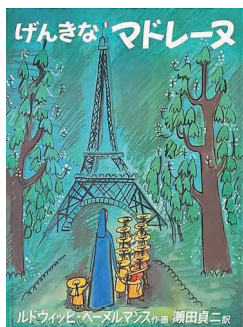
おおきなおきなおいも	福音館書店
赤羽末吉 / 作・絵	
	楽しみにしていたいもほり遠足が、雨が降り延期になってしまいました。残念がる子どもたちは大きな紙においもを描きはじめます。紙をつなげてつなげて、おいもの絵はどんどん大きくなっていく……。大きなおいもをめぐる子どもたちの空想がつまった絵童話です。

おふろだいすき	福音館書店
林明子 / 絵, 松岡享子 / 作	
	ぼくが大好きなおふろにあひるのブッカをつれて入ると、おふろの中から、ぼか、ざあ一つ。おおきなかめがういてきて……。個性豊かな生き物が次々と登場して、お風呂の中がどんどんにぎやかになっていきます。読んでいる子どもたちも思わずお風呂に入りたくなってしまう絵本です。

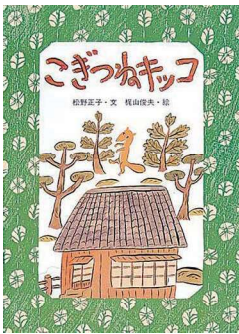
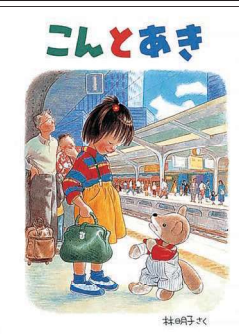
かいじゅうたちのいるところ	富山房
モーリス・ゼンダック / 作, じんぐうてるお / 訳	
	マックスはおおかみのぬいぐるみを着ていたずら放題。怒ったお母さんに寝室に放り込まれ、そこから、かいじゅうたちのいるところへ長い旅が始まります。短い文章と不思議な魅力をもった挿し絵で子どもの好奇心や冒険心とともに、最終的には、親子の愛情も伝わってくる絵本です。

からすのパンやさん	偕成社
かこさとし / 作	
	からすのパンやさんに4羽の赤ちゃんカラスが生まれました。子育てで大忙しのパン屋さん、子どもたちのおやつは焦げパンや生焼けパン。そのパンが友達の間で人気になり……。ページいっぱいに出てくる楽しいパンたち、一羽一羽表情の違うカラスたちに、子どもたちと一緒に盛り上がること間違いなしです。

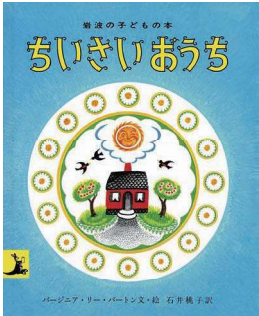
くまのコールテンくん	偕成社
ドン＝フリーマン / 作, まつおかきょうこ / 訳	
	コールテンくんはデパートのおもちゃ売り場で、だれかが買ってくれるのを待っています。服のボタンを探しに夜のデパートの中を大冒険する場面では、コールテン君と一緒にハラハラドキドキすることでしょう。「ともだち」というやさしいあたたかい気持ちも溢れてくるお話です。

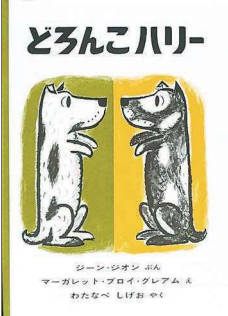
げんきなマドレーヌ	福音館書店
ルドウィッヒ・ベームルマンス / 作・画, 瀬田貞二 / 訳	
	パリの寄宿学校に12人の女の子が暮らしていました。いつも2列に並んで、パンを食べ、歯をみがき、ベッドに入ります。中でもいちばんおちびさんで、いちばん元気なのがマドレーヌ。ところが、ある晩、わーわー泣き出し……。パリの街並みの中繰り広げられるかわいなお話はなしです。

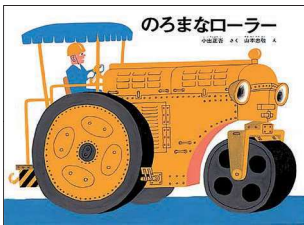
4・5歳向け

こぎつねキッコ	童心社	こすずめのぼうけん	福音館書店
松野正子 / 文, 梶山俊夫 / 絵		ルース・エインズワース / 作, 石井桃子 / 訳, 堀内誠一 / 画	
	山の幼稚園の裏山に住んでいるこぎつねのキッコ。母さんと二人でこっそり幼稚園をのぞくのが大好き。夏休み、子どもたちがいない幼稚園で、砂場やブランコでひとり遊ぶキッコ。好奇心旺盛なキッコの様子やしぐさは、子どもを山の幼稚園へ誘います。 キッコの愛らしさを伝えている絵もほのぼの。		つばさを動かすことができるようになったこすずめが、飛び練習を始めるところからお話が動き出します。嬉しくて飛び続けるこすずめが、休む場所を求めて次々と鳥の巣をたずねます。が、鳴き声が違うために入れてもらえません。日も暮れて疲れきったこすずめの前に……。 子どもは、こすずめの心細さと安堵感を味わうことでしょう。
こんとあき	福音館書店	三びきのこぶた	福音館書店
林明子 / 作		瀬田貞二 / 訳, 山田三郎 / 絵	
	あきのおもい役としてやってきたキツネのぬいぐるみのこん。あきが成長するにつれて、こんは古くなり、とうとう腕がほころびてしまいます。その腕を直してもらうため、汽車に乗っておばあちゃんの住むさきゅうまちへ。わくわく、ハラハラ初めての二人旅。 絵本の中には、作者のお茶目なあそびが散りばめられています。		同名の絵本が他にもありますが、こちらの絵本がおすすめです。 三匹目のこぶたは、カブ掘り、りんごもぎなど、知恵を働かせてオオカミを退治します。利口なこぶたにしてやられるオオカミの様子がおかしく痛快です。 もとのお話は『イギリスとアイルランドの昔話』という本にあります。この本もどうぞお楽しみください。
しょうぼうじどうしゃじぶた	福音館書店	すてきな三にんぐみ	偕成社
渡辺茂男 / 作, 山本忠敬 / 絵		トミー・アンゲラー / 作, いまえよしとも / 訳	
	はたらくくるまは、いつの時代も子どもたちに人気です。 消防自動車じぶたは、ジープを改良してつくられたちびっこ消防車です。 はしご車、高圧車、救急車にばかりにされていたじぶたに、ある日出動命令が。 小回りのきくちびっこ消防車だからこそ大活躍！ 子どもたちの応援の声があがる一冊です。		黒マントに黒い帽子の盗賊三人組。おどしの道具は三つ、ラッパ銃にこしょう吹きつけ器、そして真っ赤なおおまさかり。盗んだ宝の使い道など考えたことのない三人組が……。ある日みなしごの女の子を連れ帰ってしまいました。 そこで話は一変し、ため込んだ財宝で城を買い、孤児たちを育てるという意表をつくお話の展開が面白い。
だいくとおにろく	福音館書店	だるまちゃんとてんぐちゃん	福音館書店
松居直 / 再話, 赤羽末吉 / 画		加古里子 / 作・絵	
	昔話によくある「名前あて」のお話。 流れの急な川に橋をかけるよう頼まれた名高い大工の前に、目玉をよこせば橋をかけてやるという鬼が現れます。大工がよい加減な返事をしているうちに橋が完成し、逃げ出す大工に鬼は、自分の名前をあてたら許してやってもいいと言います。 簡潔な語り口と、力強い鮮やかな絵が、子どもをひきつけます。		だるまちゃんは、お友達のとてんぐちゃんの持っているものが次々と気になり欲しがります。うちわ、帽子、下駄、そして長い鼻。お父さんのだるまどんが用意し、たくさん並べてくれますが、どれも気に入りません。そこでだるまちゃんは……。 子どもらしい言動が、ユーモアたっぷりに描かれています。

4・5歳向け

ちいさいうち	岩波書店
バージニア・リー・バートン / 文・絵, 石井桃子 / 訳	
	静かないなかに、ちいさいうちがたっていました。リンゴの木や畑にかこまれて、たいへんしあわせでしたが、まわりに工場がたち、電車が通ってにぎやかな街になると、小さいうちは、いなかの景色を夢見てさびしく思うのでした……。でも、最後には美しい自然の中で幸せになるという、自然の喜びを伝える絵本です。

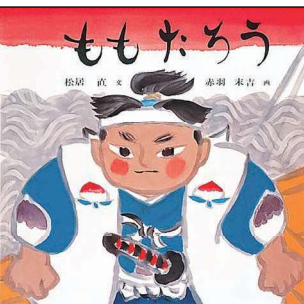
どろんこハリー	福音館書店
ジーン・ジオン / 文, マーガレット・ブロイ・グレアム / 絵, わたなべしげお / 訳	
	お風呂に入るのが大嫌いな「くろいぶちのあるしろいぬ」ハリー。お風呂の水の音を聞き逃げ出し、どろんこになるまで遊んで「しろいぶちのあるくろいぬ」になってしまいます。家に帰ってもだれもハリーと分かってくれません。大奮闘のあげくお風呂に入れてもらって、ハリーと分かります。心からほっとする幸せな結末です。

のろまなローラー	福音館書店
小出正吾 / 作, 山本忠敬 / 絵	
	ゆっくり道をなおしているローラーを「どいたりどいたり。あつはつは……」などと自動車が進み越していきますが、坂の途中まで来ると、みんな止まってしまいます。ゆっくり通り過ぎるローラーに「きみのおかげでみちもりっぱになるのですね。ほんとにありがとう。」と。認められたうれしさを感じさせる絵本です。

はじめてのおつかい	福音館書店
筒井頼子 / 作, 林明子 / 絵	
	みいちゃんはママに頼まれて牛乳を買いに出かけます。自転車にベルを鳴らされてどきんとしたり、坂道で転んでしまったり……。お店につきましたがだれもいません。「ぎゅうにゆうください」と言いましたが小さな声しか出ません。お店の人は、みいちゃんには気がつかないみたい……。こどもの心の動きを鮮やかに描いた絵本です。

はたらきもののじょせつしゃけいていー	福音館書店
バージニア・リー・バートン / 文・絵, いしいももこ / 訳	
	雪にうもれたジェオポリスの町を、赤いトラクターのけいていーが除雪車をつけ、「ちゃっ! ちゃっ! ちゃっ!」とみちをつけていきます。おかげで消防車は火事を消し、救急車は病人を助け、飛行機は着陸することができました。力強く雪をかきのけ町を救うけいていは、頼もしく、子どもたちのあこがれです。

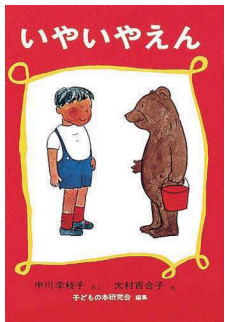
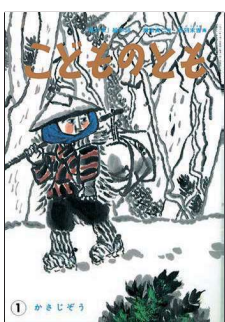
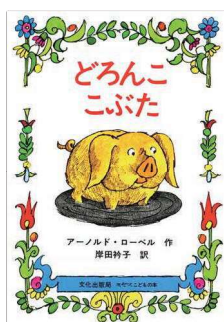
ふしぎなたけのこ	福音館書店
松野正子 / 作, 瀬川康男 / 絵	
	誕生日のご馳走のたけのこを堀りにいったたろ。脱いだ上着をかけたたけのこが「ぐぐぐ」とのびます。あわててとびつくと、どんどのびて、とても高くなります。とうさんたちがやっと切ったそのたけのこは、いくつもの山々の木をおしわけて倒れ、それを伝わっていくと海に出たという昔話風の力強い絵本です。

ももたろう	福音館書店
松居直 / 文, 赤羽末吉 / 絵	
	おばあさんが川で拾ったももからうまれたももたろう。おばあさんとおじいさんが用意してくれたおかゆや魚を食べて、どんどん大きくなり、立派に成長します。そんなある日、ももたろうは鬼が島の鬼が悪事をはたらいていると聞き、鬼退治にでかけることにします。力強い絵とともに、本当の昔話の面白さが味わえる1冊です。

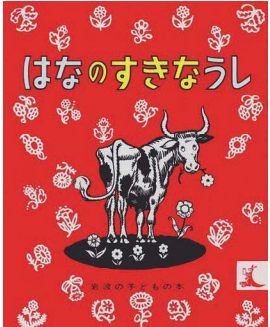
私たちからのメッセージ

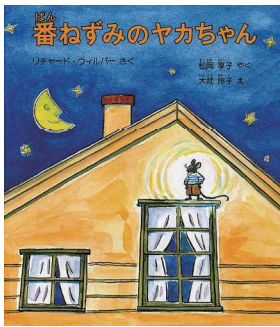
4歳ごろは、自立心が芽生え、ことばに対する力がどんどん伸びるときです。ことばを耳で聞いてそのことばの世界を頭の中に思い描くことのできる力、いわゆる想像力や空想力といわれる力の基礎をしっかりと身に着けることが大切になります。ですから、この時期は、ものがたりや昔ばなし絵本を中心に選ぶと良いでしょう。自立心や冒険心が十分に満たされ、満ち足りた幸せな気持ちで閉じることのできる、そんな絵本を選びましょう。

低学年向け (6歳～)

いはいやえん	福音館書店	エルマーのぼうけん	福音館書店
中川李枝子 / 作, 大村百合子 / 絵		ルース・スタイルス・ガネット / 作, ルース・グリスマン・ガネット / 絵, わたなべしげお / 訳	
	しげると保育園の仲間たちの楽しいお話が7話入っています。「山のぼり」では、みんなで果物の山へ遠足に行くことになりました。でも、先生との約束を守らなかったしげるとは、黒い山で子どもの鬼に出会います。 しげるとがいたずらをしたり、わがままを言ったりするところに子どもたちは共感することでしょう。		エルマーは、どうぶつ島に捕らえられているりゅうを助けるために冒険の旅に出ます。持ち物は、チューイングガム、棒つきキャンデー2ダース、歯ブラシ、リボン7本など。エルマーは、これらを使ってりゅうを無事救い出します。 子どもの夢やあこがれを満足させてくれるエルマーのシリーズは、あと2冊あります。
王さまと九にんのきょうだい (中国の民話)	福音館書店	おさとぼうしうり	ペンギン社
君島久子 / 訳, 赤羽末吉 / 絵		エズフィール・スロポドキーナ / 作・絵, まつおかきょうこ / 訳	
	顔も体つきもそっくりな九人の兄弟の一人「ちからもち」が宮殿の倒れた柱を直します。ところが王様はいつか自分を倒しに来るのではないかと心配になり、無理難題を吹っ掛けます。そこで今度は「くいしんぼう」が……。 九人の兄弟が力を合わせて都の悪い王様の計略を破り、やつつけてしまう中国の民話です。		帽子売りは、自分の頭の上に帽子をのせて売り歩いていました。ある日、大きな木の下でひと眠りして目を覚ますと、帽子がなくなっていました。帽子を盗んだのは、木の上にいるさるたちでした。 さて、帽子売りはどんな方法で帽子を取り返したのでしょうか？ 真面目な帽子売りとおさるたちとのやりとりが愉快なお話です。
かさじぞう	福音館書店	くんちゃんのはじめてのがっこう	ペンギン社
瀬田貞二 / 再話, 赤羽末吉 / 画		ドロシー・マリノ / 作, まさきるりこ / 訳	
	貧乏なおじいさんは、大晦日に網笠を売りに町へ出かけますが、売れませんでした。そこで雪をかぶっているお地蔵様に笠をかぶせて帰ると、次の朝、そり引きの声がして……。 墨を用いた絵は、日本の雪を見事に表現しています。また、リズムある掛け声も素朴な昔話にあっています。		「今日から学校へ行くんだ」と、張り切っていたくんちゃんでしたが、字を読んだり、書いたりできないので、自信をなくして外へ飛び出してしまいます。でも大丈夫、楽しい一日を過ごします。 他に「くんちゃんのだいいりょう」などシリーズがあります。どれもくんちゃんがのびのびと成長していく様子が描かれています。
したきりすずめ	福音館書店	どろんここぶた	文化出版局
石井桃子 / 再話, 赤羽末吉 / 画		アーノルド・ローベル / 作, 岸田衞子 / 訳	
	じいさの大事に育てているすずめが、洗濯のりを食べて、ばあさに舌を切られてしまいます。じいさは牛洗いや馬洗いに聞いて、すずめの宿にたどり着きます。宿では丁重にもてなされ、帰りに宝の入ったつづらをもらいます。次にばあさが宿に行く……。 昔話らしい繰り返しや、じいさとばあさの対比が面白い絵本です。		こぶたは、どろんこの中に沈んでいくのが大好きでした。ところが、ある日おばさんが大掃除をして、どろんこがなくなってしまう。怒ったこぶたは、家を出て、どろんこを探しに行きます。やっとみつけたどろんこはセメントだったから、さあ大変！ こぶたの困った表情が印象的なユーモアのある絵本です。

低学年向け (6歳～)

はなのすきなうし	岩波書店
マンロー・リーフ / お話, ロバート・ローソン / 絵, 光吉夏弥 / 訳	
	「フェルジナンド」って変わった名前ですね。だって、スペインの牛ですから。フェルジナンドは花のにおいをかぐのが大好き。ひよんなことから、闘牛場に連れていかれたフェルジナンドは、ちゃんと、戦えるのでしょうか。 文字や絵の雰囲気も優しく、字を読めるようになった子が自分で読むのにぴったりの本です。

番ねずみのヤカちゃん	福音館書店
リチャード・ウィルバー / 作, 松岡享子 / 訳, 大社玲子 / 絵	
	読み聞かせるには少し長いかもしれませんが、お母さんねずみの歌や、主人公のヤカちゃんねずみの大きな声など、声に出して読みたくなる楽しいお話です。人間に退治されそうだったねずみの一家が、その家に住むようになったわけが、繰り返しの表現を使いながら楽しく書かれています。

ピーターラビットのおはなし	福音館書店
ビアトリクス・ポター / 作・絵, いしいもこ / 訳	
	大人には、もうおなじみのピーターラビット。子どもたちもうさが大好きです。いろいろな姿の挿絵を見るだけでも楽しくなります。シリーズでいろいろなお話が出ていますから、ピーターが好きになった子は、この一冊をきっかけに次々と読み進めましょう。日本とは違う雰囲気の色も素敵です。

ひとまねこざるときいろいぼうし	岩波書店
H.A. レイ / 文・絵, 光吉夏弥 / 訳	
	おさるのジョージは、知りたがりやで、人まねが大好き。アフリカから黄色いぼうしのおじさんに連れて来られました。ジョージが巻き起こすいろいろなことが、愉快な挿絵とともに読者を楽しませてくれます。子どもたちは、この本を読みながら、かわいいジョージのことが大好きになるでしょう。テレビアニメにもなりました。

ふたりはともだち	文化出版局
アーノルド・ローベル / 作, 三木卓 / 訳	
	がまがえるのがまくんとかえるくんは、とてもなかよし。二人でするお話は、なんだかとてもほのぼのしています。友だちのよさが分かるようになってきた低学年児童は、ますます、「友だちっていいなあ。」という気持ちになるでしょう。一冊に5つのお話が入っています。自分で一つずつ読むのもいいですね。

ペレのあたらしいふく	福音館書店
エルサ・ベスコフ / 作・絵, おのであゆりこ / 訳	
	どのページにも大きな挿絵があり、文章は少なめで読みきかせにぴったりの本です。ペレは、好きなこひつじの毛から服をつくりまわす。服が出来あがるまでに、大人にいろいろなことをお願いするのですが、その代わりに、ペレもいろいろな仕事を引き受けます。最後のページの羊とペレは、とてもうれしそうです。

ものぐさトミー	岩波書店
ペーン・デュボア / 文・絵, 松岡享子 / 訳	
	主人公の名前は、トミー・ナマケンボ。電気仕掛けの家に住んでいます。そこでは、歯磨きも食事も、すべてが自動でできてしまいます。ところが、ある日、大雨が降り大風が吹き、電柱が倒れてしまいました。もちろん自動機は、動きません。さて、ものぐさトミーは、どうなるのでしょうか。続きは読んでのお楽しみ！

私たちからのメッセージ

自分で文字を読むことが出来るようになる年齢なので、絵本と読み物の橋渡しになるような本を集めました。一人で読めるようになった子のために、文字もあまり小さくなく、挿絵も多めです。

また、この頃の子どもは、身の回りの事物・自然とも話ができるような感性を持っており、空想の世界に浸って楽しむことができる本も大好きです。言葉の繰り返しがあったり、話の展開がわかりやすかったりと、子どもが次の展開を期待しながら楽しく読めるものを選びました。